



早川一光 (1924~2018) 撮影 古川英美

医師 早川一光を語る会

第二回

テーマ「死にゆく人はさみしいのか？」

2020年 6月13日(土)
13:00~17:00

オンライン会議システム
「Zoom」にて開催

参加
無料

事前申し込み
(定員80名)



上野 千鶴子氏

社会学者。東京大学名誉教授。認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長。女性学、ジェンダー分野のパイオニアであり高齢者の介護問題にも関わっている。独居世帯率が増加する中で、在宅ひとり死も現実的になってきた。制度と医療が救えるもの、救えないもののある中で死にゆく人はさみしいのか。



岸上 仁氏

脳神経内科専門医、真宗大谷派受念寺副住職。旭会園田病院、脳神経リハビリ北大路病院にて神経難病、認知症などの脳神経内科診療を行う一方、大谷大学にてインド仏教の研究に携わる。医療現場の問いを仏教に確かめ、また仏教の学びを毎日の診療の中で確かめることを課題として取り組む。



西 智弘氏

川崎市立井田病院かわさき総合ケアセンターにて、腫瘍内科/緩和ケア/在宅ケアをトータルで診療。一般社団法人プラスケア代表理事。「暮らしの保健室」の運営を中心に、病気になっても安心して暮らせるまちづくり活動を行っている。がんを抱えても自分らしく生きたいという訴えに応えられるような緩和ケアを目指している。

京都西陣で在宅医療を中心に、「患者や家族が主人公」の医療、看護、介護を目指してきた医師、早川一光。自分自身が病気になった後は、今度は患者として、「誰のための医療なのか」を自分たちの課題として考えていく大切さを発信し続けました。早川一光の療養は、家族に囲まれ、定期的な医療・看護・介護サービスを受けながらの生活でしたが、「さみしい、道半ば」と最期まで言いつづけていました。死にゆく人はさみしいのでしょうか？ そのさみしさはどこから生じるのでしょうか？

「患者や家族が主人公」の医療においてさえ抱かれるその普遍的なさみしさに、患者も家族も社会も、どのようにとり組んでいけばよいのでしょうか。「語る会」でみなさまと考えたいと思います。

<実行委員会(五十音順)>

川村 雄次 北澤 彰浩 東條 文明 西沢 いづみ 早川 岳人
細尾 真奈美

<呼びかけ人(五十音順)>

鎌田 實 黒岩 卓夫 高見 国生 中村 伸一 山口 研一郎

主催 早川一光先生を語る会実行委員会 立命館大学 地域健康社会学研究センター

医師 早川一光を語る会

テーマ 「死にゆく人はさみしいのか？」

◆ 進行予定

13:00	開演
13:10~14:10	上野 千鶴子氏(社会学者)
14:10~14:15	休憩
14:15~15:00	岸上 仁氏(脳神経内科専門医、真宗大谷派僧侶)
15:00~15:45	西 智弘氏(腫瘍内科・緩和ケア医)
15:45~15:55	休憩
15:55~17:00	ディスカッション・質疑応答
17:00	閉会

2020年

6月13日(土)

13:00~17:00

オンライン会議システム
「Zoom」

会が終了後、会全体を編集をして、後日ネット配信をする予定です。また、今般の感染症拡大が落ち着き、皆様が集まれるようになりましたら、今回の内容の振り返りも含め、あらためて会を開催したいと思います。今後の予定もホームページをご覧ください。

◆ 申込方法

下記ホームページ・QRコードから事前にお申し込みください。

(事前申込制・先着順)

※申し込み締め切りは、6月4日(木)です

※お申し込み受付が完了した方に、「語る会」アクセスのためのIDとパスワードをメールでお送りしますので、入力してご参加ください。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/research/health-c/>



◆ お問い合わせ

立命館大学 衣笠総合研究機構 地域健康社会学研究センター 気付

「早川一光先生を語る会」事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

メール:warajiisha@gmail.com FAX:075-466-3347